

Por um futuro melhor



どの子の未来も明るくなりますように！

ブラジル通信 No.20

2018.11.26

学校教育課 鳥山徳子

「Entendeu?」(わかりましたか?) ← 授業などでは使わないようにしている言葉ですが、伝わっているかどうかは表情だけでは判断できないので、つい使ってしまいました。

ブラジル(パラナヴァイ市)の教育制度あれこれ その①

I: 校長先生の選挙制度

【選挙制度になった背景】

以前は教育局が配置していたが、政治が絡み、教育がよくない方向へ進んでいったので、今の方法に変更になった。昨年市長が変わり、任期が4年間から2年間になった。

【選挙の手順】

- ①11月中旬に立候補の意向を教育局に伝える。
- ②12月に先生方と、保護者の代表者15人による選挙を行う。

【当選と落選】

○選挙に当選した場合 (60%以上の得票が必要)

- ・校長は、supervisor と orientador を選ぶことができる。
- ・先生については、校長先生が自分の学校に引っ張ってくることはできない。

※一度校長先生になっても、希望があれば先生 (professor) に戻ることできる。

×選挙に落選した場合

- ・落選した場合は、先生に戻る。
- ※この場合、その学校の新しい校長先生が、前任の校長先生を気に入らない場合は、別の学校へ転任させることもできる。また、1人しか立候補者がおらず、その方が落選した場合は、教育局が考えた校長を配置するが、政治が絡んでいることが多い。



先生方の誕生日の掲示 (左)と、職員室の扉の掲示

★選挙速報★

今年の校長選挙では、19校のうち4人が退職を決め、2人が立候補を取りやめることになったそうです。

ある学校で、「学校経営をしていくうえで、最も大切にしていることは何ですか」と尋ねた際に、「先生方の部屋をきれいに飾ることや先生方にプレゼントを贈ることです。」と答えられた校長先生がいて驚きました。通訳を介しているのに、こちらの質問の意図がうまく伝わらなかったのかもしれませんが、どの学校に行っても、先生方の休憩室には、先生方の誕生日が掲示されていて、その掲示も校長先生が作るそうです。「先生の日」にはもちろんプレゼントを渡し、先生方に感謝の気持ちを伝えるそうです。

ある学校の校長先生に、私の考えを伝えてみました。「私は、選挙制度はあまりよく制度だと思いません。どうしてかということ、校長先生は、選挙で自分に投票してもらわないといけなくて、先生方にとっても気を遣っているように見えます。例えば、ある先生の子どもへの指導方法が間違っていて、注意したいと思ったときに、自分に投票してもらえないと困るからという理由で注意できないのではないですか?」と伝えると、校長先生は、「そうですね。ここだけの話ですが、とても気を遣わないといけなくて、難しいですよ。でも、私は選挙制度には賛成です。」と答えられました。疲れるからという理由で先生 (professor) に戻った方もいれば、「自分は先生よりも校長に向いていると思う」「校長の仕事は楽しい」と言う方もいました。

政治の介入を防ぐために始まった校長先生の選挙制度は、今後どうなっていくのでしょうか。

II: 教職員の異動

- ・希望しない限り、ずっと同じ学校に勤務できる。

III: 教職員の退職など

- ・希望する限り働くことができる。「もうあなたは年を取って動けないでしょ」と言われるまでは働けるらしい!? 年齢と勤続年数の合計が60年を過ぎないと辞めることができない。
- ・産育休は6か月間。産む前に休んでしまうと後が辛いので、ぎりぎりまで働く人が多い。

IV: 教職員の勤務時間

20時間勤務(4時間×5日・うち6時間は研修時間):午前7:30~11:30 か午後13:30~17:30 を選択
40時間勤務(8時間×5日・うち12時間は研修時間):7:30~17:30 (昼休憩2時間を含む)

※どちらかの勤務形態を自分で選択する。

※全日制では、昼は子どもたちは昼寝をしている学校が多いが、先生たちはみんな家に帰ってしまうので、校長先生や SUPERVISOR や ORIENTADOR が留守番をしていることが多かった。

※教育局は、8:00~17:00 (11:30~13:30 は昼休憩) ←うらやましい!!

※20時間勤務の先生の初任給は、大体1300レアル(4万円程度)とっていました。

Por um futuro melhor



どの子の未来も明るくなりますように！

ブラジル通信 No.21

2018.11.26

学校教育課

鳥山徳子

2 巡目が終わると何人もの校長先生に言っただき、うれしかった言葉です。

「Volte a qualquer momento！」(いつでも戻ってきてください！)

ブラジル(パラナヴァイ市)の教育制度あれこれ その②

V : 学級の人数

【Infantil】 25人以下 【1～2年生】 30人以下

【3～5年】 35人以下

VI : 学習科目

- ・国語と算数は担任が教えている。週に各6時間。
- ・幼稚園から歴史&地理・理科・体育(週2時間)は、専門の先生。
- ・市のプロジェクトで、美術の先生もいる。(週に1回・全市に配置)
- ・パラナヴァイ市では、全日制の学校の特別支援学級の子は、午前(または午後)のみ勉強。午後(午前)は下校。通常学級との交流はない。特別支援学級のない学校は、担当者が付き添い、通常学級で学習する。

VII : 教室の設備

- ・扇風機あり。エアコンは設置してある学校とない学校がある。
- ・個人のロッカーはなく、かばんは椅子に掛けるか床に置いてある。
- ・子どもたちの教科書や教材などを入れる大きなロッカーはある。
- ・教室は、窓が小さく、照明も小型なので、かなり暗い。
- ・机の高さは調節できないので、低学年の子どもたちは足が床につかず、ずっとぶらぶらさせている。
- ・全日制の学校は、昼寝をするので(5年生も)、教室にマットレスが積んである。高学年になると、昼寝をしない学校や、昼寝の最中にけんかが起きるので、寝ない子にはお手伝いをさせている学校もある。
- ・最後の方でわかったことで、市から水筒をもらっているが、家から持ってきているわけではなく、学校に置いておいて、水飲み場(飲み水の出る水道)がどの学校にもあり、そこから自分の水筒に入れている。
- ・黒板は磁石黒板ではない。←←← 一番困りました(泣)
- ・黒板の上に鏡があり、先生が板書していても子どもたちが見えるようになっていて。←市長さんと教育局長さんに磁石黒板設置を要望しましたが…。

VIII : 給食事情

- ・各学校で作るので、学校ごとに味が違う。おいしい学校もあれば、そうでない学校もある。スプーンのみで食べる。
- ・ごはん・肉(牛肉か鶏肉)・フェジョン・野菜の入った大きな鍋があり、自分が欲しいものだけを調理員さんにリクエストし、よそってもらう。ご飯とフェジョンと肉の組み合わせが多い。中にはご飯と野菜だけの子どももいる。先生方も配膳を手伝う。「Salada(野菜は?)」と聞くと、「Não」と答える子が多く、野菜嫌いの子が多い。
- ・食べられない分は片づける場所があって、そこで皿をきれいにしてから配膳室に返却。最後まで残さず食べさせている学校もあった。

IX : 子どもたちの様子

- ・ほとんどの女の子が、口紅・マニキュア・指輪・イヤリング・ネックレスなど何らかのおしゃれをして登校。カチューシャが大流行！！
- ・男の子は、ワックスで髪を立たせたり染めたりしているが、少数派。
- ・アニメは「ナルト」が一番人気。ポルトガル語での放送があるらしい。その影響で、忍者が人気。あとは、ドラゴンボール。「カメハメハ！」のポーズを子どもたちに見せると、大喜びだった！



これが教室に4つだけ。すごく暗い。



水飲み場に、コップが置いてある学校もありました。



野菜を配っている先生

給食やおやつを作る調理員さん



ぼくは、ご飯を大盛りにして!